

平成28年度 能美市立福岡小学校 学校評価(最終報告) ○は中間評価を受けての重点項目

重点目標(めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1 組織的な学校運営	①(校長ビジョンの具現化) 学校経営ビジョンの具現化を図るため、主任等を中心として、同僚性・専門性を活かして、全員が協働する学校づくりをめざす。	教頭	<成果指標> 主任等のリーダーシップのもとで各分掌が組織的に連携できている。	【教職員アンケート】 組織的・機能的に運営されたという教職員の意識の割合	【教員①93%】 ロードマップを学校教育全体の指標と捉え、各月の重点的な水運委員会等で共有し、その上で細かく分かれて計画・実施している。各主任が部会を中心として指導助言を行い、チームとして実践をすすめている。	A	支援を必要とする児童・学級については、複数での見守り体制等、組織的な対応に努めており、また、メール配信での危機管理もすすんでいっている。また、爆発予告等、マスキングが取り上げ保護者も不安を抱く事案については、PTA会長等と対応を確認し、迅速な対応・メール等での周知をお願いしたい。	各取組に対するPDCAの意識化はなされてきているが、次の取組に何をどう生かすかという見通しについてはもう少し十分練られていない。年度末のふり返りの際により有効なロードマップの活用を検討協議し次年度につなげていく。
	②(安全指導・危機管理) 安全対策や危機管理の指導力を高める。いじめ、不登校等の課題には、組織的に迅速・確に対応する。	教頭	<努力指標> いじめ不登校に対し定期的な児童アンケートや面談で早期発見し、問題には、関連機関との連携を進めながら、早期で適切な対応に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 教師と児童、児童同士の良好な人間関係が成立し、危機的な問題には早期発見、早期対応に努めているという割合	【児童②93%、教員②100%】 担任は自学級の児童についての情報交換を積極的に行い、「全ての職員としての児童の育成を見守る」意識が形成されている。不測の事故が発生した際のフローチャート図を作成し、また、保護者との連絡にも努め、当事者一週間一保護者と学校すべてが安心して学校生活を営めるように努力している。	B		職員全体のアンテナを常に高く持ち続けること、決して一人で抱え込まないことを大切に。気がかた児童や保護者とは、躊躇せず面談等を行い、安心定着した気持ちで通学できるように努め、説明が必要と感じる事案については、PTA役員にも報告し、学級懇談会に管理職も参加し、理解と協力を求めたい。
2 知(確かな学力の育成)	①(授業改善と授業力の向上) 全ての子どもがわかる・できるような工夫・配慮された授業改善を行い、「学力向上ロードマップ」に従って組織的・継続的・積極的に学力向上に取り組む。	学習指導部	<満足度指標> 児童がわかる・できるように授業改善し、児童の実感となっている。また、学力向上ロードマップの確実な実践に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 【保護者アンケート】 授業内容がわかるという児童・保護者の割合・学力向上ロードマップに従って取組できているという教師の割合	【児童②91%教員③100%保護者②87%】 児童アンケートのAB評価が9%向上したことが一番の成果と言える。教師が「ねらい」課題を明確にして「ゴール」の設定を意識化したことで、「わかる・できる」授業も達成感を持って学習をすすめることが増えた。個別支援が必要な児童に対する手立てを工夫している。	A	確かな学力の育成における児童の「達成感」の尺度は何か。各数値を見ると、向上してきたことが、4択のアンケートだけでなく、具体的な項目・表現を通して、児童が自身の学びを振り返る評価をすることで、次の目標につながる力が付くと思う。そのことが、一人一人が自信をもって自己PR・プレゼン能力をのほすことにつながると思う。	学力向上ロードマップの確実な実践と組織としてのより効果的な取組をさらに工夫していく。また、各学年の指導事項の定着を徹底し、学びが確実に積み上げられるようにする。今後も、「授業見合い」などを進めて、指導と評価の一体化を具現化する授業改善についての研究を深め、授業力向上を目指す。
	②(基礎・基本の定着) 「きらめきシステム」を充実・発展させ、計画的・組織的に検証・改善を進め、基礎的知識・技能を定着させる。	学習指導部	<成果指標> 「きらめきシステム」が計画的・組織的に運営され、基礎・基本を定着させるものになっている。	【教職員アンケート】 「きらめきシステム」が計画的・組織的に運営され、基礎・基本を定着させるものになっている。	【教員④93%】 A評価が14%向上した。朝の「きらめきタイム」では、全校で集中して取り組むことで、放課後の「チャレンジ学習」「リソース」において支援の必要な児童に継続的な補充が行われ、児童の確かな理解につながった。	A		より基礎基本の向上につなげるために、担任との連携を密にし、T2(級外)の配置を含め、次年度はもう少し早い時期から計画表を作成し取り組む。(リソースは、今年度7月開始) 成果と課題を共有し、具体的な改善策を講じる。
	③(学び合い) 言語活動、活用力の育成、全ての教育活動で適切な言語活動を充実させる。相互意識を持って協働や組織を明確にして表現力やプレゼン能力を育成する。	学習指導部	<成果指標> 自分の考えを根拠や筋道を明確にして表現する言語活動を適切に行っている。学び合う意欲が高められ、活用力の育成につながる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 教師と児童の割合	【児童③71%④92%教員⑤79%】 言語活動・学び合いの重要性を共有し、教師・児童ともに意識の高まりがみられる。同時にその難しさを実感し、評価が低くなった点もある。少人数での交流のよさは実感しており、相手意識を持ったスピーチ指導等の工夫を行った。	B	放課後残すことが難しい時代、児童に補充学習をするのは、やりくりが大変だろうが、ありがたいことである。チャレ学習や相手意識も充実させて、できる限り残しがないように今後も努力してほしい。	早い時期から、年間の見通しを明らかにし、現状把握と次へ向う取組を焦点化する。次年度は全体化・全校実施するPDCAの道筋を確立する。学級実公開研究会をいもって計画的に行い、確実な向上につなげる。
	④(学力の検証) 学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組む。計画的に学力の向上をめざす。	学習指導部	<成果指標> 学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組む。計画的に学力の向上をめざす。	【教職員アンケート】 分析から得た学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組む。計画的に学力の向上をめざす。	【教員⑥93%】 12月の評価問題の分析も含め、課題を洗い出した。「根拠の明確さ」「筋道の立て方」を重視して、国語・算数についての強化単元を設定し取り組んだ。能美コンプリントにも計画的に取り組んできた。教師のA評価は50%と倍増した。	A		次年度は、4教科において課題対策の重点を決め、強化単元をもとに取り組みをすすめる。また、他教科でも、既習を確かに取り組み活用する力を育成する授業づくりに努める。
3 徳義かなる心(育成)	①(開発的な生徒指導) 人間関係エクスサイズやほめ言葉シャワー等で児童の自尊感情を高め、親和的な学級をつくる。	生徒指導部	<成果指標> 親和的な学級づくりが進み、自己正感や共感の深い人間関係が醸成されている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】 【教職員アンケート】 児童一人一人が自己の役割を持ち、互いに認め合い大切にされている学級と感じる3者の割合	【児童⑤78%】、【教員⑦100%】 ほめ言葉シャワーに加えハートフルボックスを作り、担任以外から認められる場を設けた。挨拶当番や人権に関するたわわり活動を行い、親和的な学級作りを目指した。教師のAB評価は14ポイント向上した。	B	学期初めの効果的な学級運営のポイントの研修をしたり、計画的なたわわり活動をかけた。取組で、「ほめ」が自己有用感の育成を目指す。生徒指導における指導と評価の一体化を可能にする教師力の向上に努める。	
	②(環境保全・奉仕活動の推進) 校内の美化活動をはじめとした環境保全や、ボランティア・奉仕活動への取組を進める。	生徒指導部	<成果指標> 誰かの役に立つことの大切さに気付かせ、自分から気づき、ことを行って移す取組を進めている。	【児童アンケート】 【教職員アンケート】 【保護者アンケート】	【児童⑥82%】、【教員⑧71%】 「きらめきシステム」をはじめとした環境美化や奉仕活動に取り組んでいるという教職員の割合	B	次年度は「たわわり掃除」の取組を試み、子ども自身が助け合い認め合える場を大切に。また、担任以外から認められる場があるのは、よいことである。担当する教員も担任も嬉しいので、懇談や学級PTA等で保護者とも共有できるように、地域でもほめられるシステムがあるとさらにいい。	
	③(道徳教育) 郷土愛をはじめとする重点項目を中心に道徳の時間を充実させる。また、豊かな体験を活かし、具体的な道徳教育全体を通してに響く道徳教育を推進する。	道徳教育推進部	<努力指標> 道徳の公開授業をはじめ、計画的に授業実践を行う。また、教育活動全体で、体験的な活動を通して、郷土愛をはじめとしたに響く道徳教育を行っている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 道徳の公開授業をはじめ、計画的に授業実践を行う。また、教育活動全体で、体験的な活動を通して、郷土愛をはじめとしたに響く道徳教育を行っているという教師の割合	【児童⑧93%教員⑨100%】 月ごとに道徳の授業のねらいを提示し、授業にのびのびと取り組むという話から授業改善への意識向上につなげるようになった。また、地域の人材を活用した授業づくりも行い、ゲストティーチャーへの依頼だけでなく、地域への愛着を高める場とした。	B	教師評価100%が多いが、児童はそうではない。教師が組織的な実践をしており、自己評価が高いのだから。さらに向上するために、各取組の検証方法を具体的に定め課題意識をもって改善・工夫に取り組んでいく。	
	④(読書指導) 読書指導の多読による量的な指導を活かし、教科に関連させて読書の質の向上をめざす。	学習指導部	<努力指標> 教科での並行読書や調べ活動での図書館活用が行われている。また、読書会、家庭での読書活動の推進に努めている。	【教職員アンケート】 【児童アンケート】 教科での並行読書や調べ活動での図書館活用が行われている。また、読書会、家庭での読書活動の推進に努めているという児童の割合	【児童⑨87%】 【教員⑩100%】 さまざまな取組において、図書館の活用が活発に、意識的に行われた。いろいろな取組を通して、さまざまな分野の本を読むことが増えた。教師のAB評価は100%となり、A評価は35%向上した。	A		読書量は増加したが、児童の関心に個人差や内容のばらつきがあり、「〇〇先生のお話と本」など、読書月間等の取組をさらに工夫することでより充実を図っていく。次年度は、清掃後に読書タイムを設定し、落ち着いた気持ちで5限授業のスムーズなスタートにつなげる。
4 体(健やかな身体)との連携	①(基礎体力づくりと体力の向上) 同学年児童学年との多様な遊びを通して、基礎体力を高め、また、「スポチャレ」が各種運動の楽しさを体感し、結び強く、楽しく運動に親しみ、体力を向上させる。	保健体育部	<満足度指標> 休み時間には、積極的に友達と仲良く遊んでいる。また、自分たちで立てた目標に向かって意欲的に各種運動に取り組んでいる。	【児童アンケート】 【教職員アンケート】 休み時間には積極的に仲間と遊んでいる児童の割合。また、目標に向かって立てた目標と一致する児童及び目標を持たずに各種運動に取り組んでいる児童の割合	【児童⑩92%教員⑪86%】 持久走や縄跳び短時間等、全校挙げての取組の徹底を図ったことで、多くの児童の運動量の確保ができた。廊下のミニ運動コーナーでも、測定日を定める等、児童委員会の取り組みを工夫することができた。	B	昔に比べて屋外で体を使った遊びをしていない。体の使い方を知らないためのけがもあり、大人が「遊び」を教える時期に来ているのかもしれない。	
	②(安全指導の徹底) 体育活動・給食活動での安全対策・安全教育を徹底し、事故のない活動を確認する。	保健体育部	<努力指標> 安全指導を徹底し、けがや事故の防止に努め、児童の危機回避能力育成のための努力をしている。	【児童アンケート】 【教職員アンケート】 安全指導の徹底と児童の危機回避能力育成のための努力をしているという児童の割合	【児童⑪92%教員⑫93%】 器械運動を始める9月を前に、各運動の狙いや指導のポイントを7月までに共有し、器械運動の授業の際には必要に応じて支障の少ない複数体制を確保した。また、アタフィラキセッション対応のエビメン講習やノーインフルエンザ対策の講習を定期的に行い、職員全員が対応できるようにした。	B	サーキットトレーニングなど授業での体力づくりの工夫はすばらしい実践なので、器械運動など年間の見直しを持った体力づくりの取組を工夫してほしい。	
	③(健康教育・生活リズムの確立) 家庭学習やネット対応をはじめとする自らの健康や生活に心をもち、進んでよりよい生活習慣・食習慣づくりに取り組む。	保健体育部	<成果指標> 「早寝早起き朝ごはん」家庭学習強化週間」に積極的に取り組む。児童の生活リズム・学習習慣が整っている。	【児童アンケート】 【保護者アンケート】 生活リズム・学習習慣を整えているという児童の割合。また、各取組を通して児童の習慣が向上したと感じる保護者の割合	【児童⑫89%保護者⑬70%】 学期として早寝・早起き・朝ごはんについて保健指導を行いながら児童作成のマスコットを活用して取組をすすめるための取組も一定の成果を得ている。	B	「早寝早起き朝ごはん」というが「早寝」が一つのポイントである。スポーククラブや地域でも協力・呼びかけをしていきたい。	
	④(基本的な生活習慣) 保護者と連携して、PTA活動の活性化を図り、家庭学習と基本的な生活習慣の確立をはかる。	教頭	<満足度指標> PTA活動の企画が高まる。また、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われている。	【保護者アンケート】 【教職員アンケート】 学校と連携しながら親子のふれあいや家庭の教育力が活性化していると感じる保護者の割合	【保護者⑬70%⑭92%教員⑯100%】 PTAと連携して保護者・教員ともにAB評価が向上した。学校側PTAを「学校の体援団」と捉え、成果だけでなく、課題も伝え理解と協力を依頼してきた。また、必要に応じて、管理職が保護者面談や学級懇談会に出席し、「学校」としての立場と向き合いを提示してきた。④の家庭学習やネットについては、今後の課題である。	B	学校は学びの場であることはもちろんだが、一方、「習い事で忙しい」など、昔のように地域での遊び・縦のつながりが希薄になっている現状では、学校が「遊びの場」でなく、行き場のない子どもたちが出てくる。学校に何もかもお預けし、負担も大きいと思うが、子ども一人一人にわたって「居場所」になり、いろいろな関心を育てる場となってほしい。	
5 地域との連携	①(基本的な生活習慣) 保護者と連携して、PTA活動の活性化を図り、家庭学習と基本的な生活習慣の確立をはかる。	教頭	<満足度指標> PTA活動の企画が高まる。また、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われている。	【保護者アンケート】 【教職員アンケート】 学校と連携しながら親子のふれあいや家庭の教育力が活性化していると感じる保護者の割合	【保護者⑬70%⑭92%教員⑯100%】 PTAと連携して保護者・教員ともにAB評価が向上した。学校側PTAを「学校の体援団」と捉え、成果だけでなく、課題も伝え理解と協力を依頼してきた。また、必要に応じて、管理職が保護者面談や学級懇談会に出席し、「学校」としての立場と向き合いを提示してきた。④の家庭学習やネットについては、今後の課題である。	B	学校は学びの場であることはもちろんだが、一方、「習い事で忙しい」など、昔のように地域での遊び・縦のつながりが希薄になっている現状では、学校が「遊びの場」でなく、行き場のない子どもたちが出てくる。学校に何もかもお預けし、負担も大きいと思うが、子ども一人一人にわたって「居場所」になり、いろいろな関心を育てる場となってほしい。	
	②(情報される学校づくり) ニーズに応じて積極的に学校の情報を発信し、「元氣アップ事業」等を進め、効果的な地域の人材活用に取り組む。	教頭	<努力指標> 学校について多様な媒体を通じて積極的に学校の情報を発信し、「元氣アップ事業」等を進め、効果的な地域の人材活用に取り組む。	【保護者アンケート】 【教職員アンケート】 学校からの情報発信・情報開示や地域の人材活用など「開かれた学校づくり」が進んでいると感じる保護者・教職員の割合	【教員⑱100%⑲93%、保護者⑳87%】 クラブだけでなく、安全のゲストティーチャーや各行事での安全確保の協力等地域の人材の活用をすすめてきた。児童の地域への愛着心を高める働きにも有効な点も多し。また、地域コーディネーターとの連携も進んでいっている。	A	挨拶など、地域が育てられることは大切にしていきたい。学校は学習だけでなく大変な時代であり、基本は家庭と思えることも学校だけでなく地域の出番として補っていくことが求められている。地域の人間としてできる限りの協力はしていきたい。	

平成28年度 能美市立福岡小学校 学校評価(最終報告) ○は中間評価を受けての重点項目

重点目標(めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1 組織的な学校運営	①(校長ビジョンの具現化) 学校経営ビジョンの具現化を図るため、主任等を中心として、同僚性・専門性を活かして、全員が協働する学校づくりをめざす。	教頭	<成果指標> 主任等のリーダーシップのもとで各分掌が組織的に連携できている。	【教職員アンケート】 組織的・機能的に運営されたという教職員の意識の割合	【教員①93%】 ロードマップを学校教育全体の指標と捉え、各月の重点的な水運委員会等で共有し、その上で部会に分かれて計画進めている。各主任が部会を中心として指導助言を行い、チームとして実践をすすめている。	A	支援を必要とする児童・学級については、複数での見守り体制等、組織的な対応に努めており、また、メール配信での危機管理もすすんでいっている。また、爆発予告等、マスキングが取り上げ保護者も不安を抱く事案については、PTA会長等と対応を確認し、迅速な対応・メール等での周知をお願いしたい。	各取組に対するPDCAの意識化はなされてきているが、次の取組に何をどう生かすかという見通しについてはもう少し十分練られていない。年度末のふり返りの際に中心より有効なロードマップの活用を検討協議し次年度につなげていく。
	②(安全指導・危機管理) 安全対策や危機管理の指導力を高める。いじめ、不登校等の課題には、組織的に迅速・確に対応する。	教頭	<努力指標> いじめ不登校に対し定期的な児童アンケートや面談で早期発見し、問題には、関連機関との連携を進めながら、早期で適切な対応に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 教師と児童、児童同士の良好な人間関係が成立し、危機的な問題には早期発見、早期対応に努めているという割合	【児童②93%、教員②100%】 担任は自学級の児童についての情報交換を積極的に行い、「全ての職員としての児童の育成を見守る」意識が形成されている。不測の事故が発生した際のフローチャート図を作成し、また、保護者との連絡にも努め、当事者一週間一保護者と学校すべてが安心して学校生活を営めるように努力している。	B		職員全体のアンテナを常に高く持ち続けること、決して一人で抱え込まないことを大切に。気がかた児童や保護者とは、躊躇せず面談等を行い、安心定めた気持ちで通学できるように努め、説明が必要と感じる事案については、PTA役員にも報告し、学級懇談会に管理職も参加し、理解と協力を求めたい。
2 知(確かな学力の育成)	①(授業改善と授業力の向上) 全ての子どもがわかる・できるような工夫・配慮された授業改善を行い、「学力向上ロードマップ」に従って組織的・継続的・積極的に学力向上に取り組む。	学習指導部	<満足度指標> 児童がわかる・できるように授業改善し、児童の実感となっている。また、学力向上ロードマップの確実な実践に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 授業内容がわかるという児童・保護者の割合・学力向上ロードマップに従って取組できているという教師の割合	【児童②91%教員③100%保護者②87%】 児童アンケートのAB評価が9%向上したことが一番の成果と言える。教師が「ねらい」課題を明確にして「ゴール」の設定を意識化したことで、「わかる・できる」授業も達成感を持って学習をすすめることが増えた。個別支援が必要な児童に対する手立てを工夫している。	A	確かな学力の育成における児童の「達成感」の尺度は何か。各数値を見ると、向上してきたことが、4択のアンケートだけでなく、具体的な項目・表現を通して、児童が自身の学びを振り返る評価をすることで、次の目標につながる力が付くと思う。そのことが、一人一人が自信をもって自己PR・プレゼン能力をのほすことにつながると思う。	学力向上ロードマップの確実な実践と組織としてのより効果的な取組をさらに工夫していく。また、各学年の指導事項の定着を徹底し、学びが確実に積み上げられるようにする。今後も、「授業見合い」などを進めて、指導と評価の一体化を具現化する授業改善についての研究を深め、授業力向上を目指す。
	②(基礎・基本の定着) 「きらめきシステム」を充実・発展させ、計画的・組織的に検証・改善を進め、基礎的知識・技能を定着させる。	学習指導部	<成果指標> 「きらめきシステム」が計画的・組織的に運営され、基礎・基本を定着させるものになっている。	【教職員アンケート】 「きらめきシステム」が計画的・組織的に運営され、基礎・基本を定着させているという割合	【教員④93%】 A評価が14%向上した。朝の「きらめきタイム」では、全校で集中して取り組むことで、放課後の「チャレンジ学習」「リソース」において支援の必要な児童に継続的な補充が行われ、児童の確かな理解につながった。	A		より基礎基本の向上につなげるために、担任との連携を密にし、T2(級外)の配置を含め、次年度はもう少し早い時期から計画表を作成し取り組む。(リソースは、今年度7月開始) 成果と課題を共有し、具体的な改善策を講じる。
	③(学び合い) 言語活動、活用力の育成、全ての教育活動で適切な言語活動を充実させる。相互意識を持って協働や組織を明確にして表現力やプレゼン能力を育成する。	学習指導部	<成果指標> 自分の考えを根拠や筋道を明確にして表現する言語活動を適切に行っていること、学び合う意欲が高められ、活用力の育成につながる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 話し合いの意図・必要性を共有し、教師・児童ともに意識の高まりがみられる。同時にその難しさを感じ、評価が低くなった点もある。少人数での交流のよさは実感しており、話し合いの工夫も充実させた。	【児童③71%④92%教員⑤79%】 言語活動・話し合いの意図・必要性を共有し、教師・児童ともに意識の高まりがみられる。同時にその難しさを感じ、評価が低くなった点もある。少人数での交流のよさは実感しており、話し合いの工夫も充実させた。	B	放課後残すことが難しい時代、児童に補充学習をするのは、やりくりが大変だろうが、ありがたいことである。チャレ学習や、相手も充実させて、できる限り残しがないように今後も努力してほしい。	早い時期から、年間の見通しを明らかにし、現状把握と次へ向う取組を焦点化する。また、児童を主体とした授業実践のPDCAの道筋を確立する。全学年に授業公開研究会を行い、計画的に行い、確実な向上につなげる。
	④(学力の検証) 学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組む。計画的に学力の向上をめざす。	学習指導部	<成果指標> 学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組む。計画的に学力の向上をめざす。	【教職員アンケート】 分析から得た学力調査の結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組む。計画的に学力の向上をめざす。	【教員⑥93%】 12月の評価問題の分析も含め、課題を洗い出し、「根拠の明確さ」「筋道の立て方」を重視して、国語・算数についての強化単元を設定し取り組んだ。能美コンプレックスにも計画的に取り組んできた。教師のA評価は50%と倍増した。	A		次年度は、4教科において課題対策の重点を決め、強化単元をもとに取り組みをすすめる。また、他教科でも、既習を確かに取り組みする力を育成する授業づくりに努める。
3 徳義かなかなの育成	①(開発的な生徒指導) 人間関係エクスサイズやほめ言葉シャワー等で児童の自尊感情を高め、親和的な学級をつくる。	生徒指導部	<成果指標> 親和的な学級づくりが進み、自己正感や共感の人間関係が醸成されている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】【教職員アンケート】 児童一人一人が自己の役割を持ち、互いに認め合い大切にされている学級と感じる割合	【児童⑤78%】、【教員⑦100%】 ほめ言葉シャワーに加えハートフルボックスを作り、担任以外から認める場を設けた。挨拶当番や人権に関するたわわり活動を行い、親和的な学級作りを目指した。教師のAB評価は14ポイント向上した。	B	学期初めの効果的な学級運営のポイントの研修をしたり、計画的なたわわり活動に力をつけていくことで、「ほめ」が自己有用感の育成を目指す。生徒指導における指導と評価の一体化を可能にする教師力の向上に努める。	
	②(環境保全・奉仕活動の推進) 校内の美化活動をはじめとした環境保全や、ボランティア・奉仕活動への取組を進める。	生徒指導部	<成果指標> 誰かの役に立つことの大切さを実感し、自分から気づき、行動に移す取組を進めている。	【児童アンケート】 「気づき清掃」をはじめとした環境美化や奉仕活動に取り組んでいるという割合	【児童⑥82%】、【教員⑧71%】 「気づき清掃」をはじめとした環境美化や奉仕活動に取り組んでいるという割合	B	次年度は「たわわり掃除」の取組を試み、子ども自身が助け合い認め合う場を大切に。また、担任以外から認める場があるのは、よいことである。担当する教員も担任も嬉しいので、懇談や学級PTA等で保護者とも共有できるように、地域でもほめられるシステムがあるとさらにいい。	
	③(道徳教育) 郷土愛をはじめとする重点項目を中心に道徳の時間を充実させる。また、豊かな体験を活かし、具体的な道徳教育全体を通してに響く道徳教育を推進する。	道徳教育推進部	<努力指標> 道徳の公開授業をはじめ、計画的に授業実践を行う。また、教育活動全体で、体験的な活動を通して、郷土愛をはじめとする重点項目を中心に響く道徳教育を行っている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 道徳の公開授業をはじめ、計画的に授業実践を行うという割合	【教員⑧93%教員⑨100%】 月ごとに道徳の授業のねらいを提示し、授業にのびのびと参加する児童の割合が増え、生活の中で活かすという話も出てきた。また、地域の人材を活用した授業づくりも行い、ゲストティーチャーの確保だけでなく、地域への愛着を高める場とした。	B	教師評価100%が多いが、児童はそうではない。教師が組織的な実践をしており、自己評価が高いのだから。さらに向上するために、各取組の検証方法を具体的に定め、課題意識をもって改善・工夫に取り組んでいく。	
	④(読書指導) 読書指導の多読による量的な指導を強化し、教科に関連させた読書の質の向上をめざす。	学習指導部	<努力指標> 教科での並行読書や調べ活動での図書館活用が行われている。また、読書会、家庭での読書活動の推進に努めている。	【教職員アンケート】 教科での並行読書や調べ活動での図書館活用が行われているという割合	【教員⑨87%】 教科での並行読書や調べ活動での図書館活用が行われているという割合	A	読書量は増加したが、児童の関心に個人差や内容のばらつきがあり、「〇〇先生のお話と本」など、読書月間等の取組をさらに工夫することでより充実を図っていく。次年度は、清掃後に読書タイムを設定し、落ち着いた気持ちで5限授業のスムーズなスタートにつなげる。	
4 体(健やかな身体)の連携	①(基礎体力づくりと体力の向上) 同学年児童学年との多様な遊びを通して、基礎体力を高める。また、「スポチャレ」各種取組で体力を高め、結び強く、楽しく運動に親しみ、体力を向上させる。	保健体育部	<満足度指標> 休み時間には、積極的に友達と仲良く遊んでいる。また、自分たちで立てた目標に向かって意欲的に運動に取り組んでいる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 休み時間には積極的に仲間と遊んでいるという割合	【児童⑩92%教員⑩86%】 持久走や縄跳び短時間等、全校挙げての取組の徹底を図ったことで、多くの児童の運動量の確保ができた。廊下のミニ運動コーナーでも、測定日を定める等、児童委員会の取り組みを工夫することができた。	B	昔に比べて屋外で体を使った遊びをしていない。体の使い方を知らないためのけがもあり、大人が「遊び」を教える時期に来ているのかもしれない。	
	②(安全指導の徹底) 体育活動・給食活動での安全対策・安全教育を徹底し、事故のない活動を確認する。	保健体育部	<努力指標> 安全指導を徹底し、けがや事故の防止に努め、児童の危機回避能力を育成するための努力をしている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 安全指導の徹底と児童の危機回避能力の育成に努めているという割合	【児童⑩92%教員⑩93%】 器械運動を始める9月を前に、各運動の狙いや指導のポイントを7月までに共有し、器械運動の授業の際には必要に応じて支障の少ない複数体制を確保した。また、アタフィランクスや縄跳びのイベント講習や、職員全員が対応できるようにした。	B	サーキットトレーニングなど授業での体力づくりの工夫はすばらしい実践なので、器械運動など年間の見直しを持った体力づくりの取組を工夫してほしい。	
	③(健康教育・生活リズムの確立) 家庭学習やネット対応をはじめとする自らの健康や生活に關心を持ち、進んでよりよい生活習慣・食習慣づくりに取り組む。	保健体育部	<成果指標> 「早寝早起き朝ごはん」家庭学習強化週間」に積極的に取り組む。児童の生活リズム・学習習慣が整っている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】 生活リズム・学習習慣を整えているという割合	【児童⑪89%保護者⑪70%】 学期として早寝・早起き・朝ごはんについて保健指導を行いながら児童作成のマスコットを活用して取組をすすめるための取組も一定の成果を得ている。	B	「早寝早起き朝ごはん」というが「早寝」が一つのポイントである。スポーククラブや地域でも協力・呼びかけをしていきたい。	
	④(健康的な生活習慣) 保護者と連携して、PTA活動の活性化を図り、家庭学習と基本的な生活習慣の確立をはかる。	教頭	<満足度指標> PTA活動の活性化を図り、保護者の生活が活発になり、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われている。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】 PTA活動の活性化を図り、保護者の生活が活発になり、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われているという割合	【保護者⑫70%⑫92%教員⑫100%】 PTA活動の活性化を図り、保護者の生活が活発になり、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われているという割合	B	学校は学びの場であることはもちろんだが、一方、「習い事で忙しい」など、昔のように地域での遊び・縦のつながりが希薄になっている現状では、学校が「遊びの場」でなく、行き場のない子どもたちが出てくる。学校に何もかもお預けし、負担も大きいと思うが、子ども一人一人にわたって「居場所」になり、いろいろな関心を育てる場となってほしい。	
5 地域との連携	①(基本的な生活習慣) 保護者と連携して、PTA活動の活性化を図り、家庭学習と基本的な生活習慣の確立をはかる。	教頭	<努力指標> PTA活動の活性化を図り、保護者の生活が活発になり、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われている。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】 PTA活動の活性化を図り、保護者の生活が活発になり、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われているという割合	【保護者⑫70%⑫92%教員⑫100%】 PTA活動の活性化を図り、保護者の生活が活発になり、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われているという割合	B	学校は学びの場であることはもちろんだが、一方、「習い事で忙しい」など、昔のように地域での遊び・縦のつながりが希薄になっている現状では、学校が「遊びの場」でなく、行き場のない子どもたちが出てくる。学校に何もかもお預けし、負担も大きいと思うが、子ども一人一人にわたって「居場所」になり、いろいろな関心を育てる場となってほしい。	
	②(情報される学校づくり) ニーズに応じて積極的に学校の情報を発信し、「元氣アップ事業」等を進め、効果的な地域の人材活用に取り組む。	教頭	<努力指標> 学校について多様な媒体を通じて積極的に学校の情報を発信し、「元氣アップ事業」等を進め、効果的な地域の人材活用に取り組む。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】 学校からの情報発信・情報開示や地域の人材活用など「開かれた学校づくり」が進んでいるという割合	【教員⑬100%⑬93%、保護者⑬87%】 クラブだけでなく、安全のゲストティーチャーや各行事の企画、保護者の協力や地域の人材の活用をすすめてきた。児童の地域への愛着心を高める働きにも有効な点も多々。また、地域コーディネーターとの連携も進んでいっている。	A	挨拶など、地域が育てられることは大切にしていきたい。学校は学習だけでなく大変な時代であり、基本は家庭と思えることも学校だけでなく地域の出番として補っていくことが求められている。地域の人間としてできる限りの協力はしていきたい。	

平成28年度 能美市立福岡小学校 学校評価(最終報告) ○は中間評価を受けての重点項目

重点目標(めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1 組織的な学校運営	①(校長ビジョンの具現化) 学校経営ビジョンの具現化を図るため、主任等を中心として、同僚性・専門性を活かして、全員が協働する学校づくりをめざす。	教頭	<成果指標> 主任等のリーダーシップのもとで各分掌が組織的に連携できている。	【教職員アンケート】組織的・機能的に運営されたという教職員の意識の割合	【教員①93%】 ロードマップを学校教育全体の指標と捉え、各月の重点的な水運委員会等で共有し、その上で細かく分かれて計画・実施している。各主任が部会を中心として指導助言を行い、チームとして実践をすすめている。	A	支援を必要とする児童・学級については、複数での見守り体制等、組織的な対応に努めており、また、メール配信での危機管理もすすんでいっている。また、爆発予告等、マスキングが取り上げ保護者も不安を抱く事案については、PTA会長等と対応を確認し、迅速な対応・メール等での周知をお願いしたい。	各取組に対するPDCAの意識化はなされてきているが、次の取組に何をどう生かすかという見通しについてはもう少し十分練られていない。年度末のふり返りの際に中心より有効なロードマップの活用を検討協議し次年度につなげていく。
	②(安全指導・危機管理) 安全対策や危機管理の指導力を高める。いじめ、不登校等の課題には、組織的に迅速・確に対応する。	教頭	<努力指標> いじめ不登校に対し定期的な児童アンケートや面談で早期発見し、問題には、関連機関との連携を進めながら、早期で適切な対応に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】教師と児童、児童同士の良好な人間関係が成立し、危機的な問題には早期発見、早期対応に努めているという割合	【児童②93%、教員②100%】 担任は自学級の児童についての情報交換を積極的に行い、「全ての職員としての児童の育成を見守る」意識が形成されている。不測の事故が発生した際の連絡・チャート図を作成し、また、保護者との連絡にも努め、当事者一週間一保護者と学校すべてが安心して学校生活を営めるように努力している。	B		職員全体のアンテナを常に高く持ち続けること、決して一人で抱え込まないことを大切に。気がかかると児童や保護者とは、躊躇せず面談等を行い、安心定めた気持ちで通学できるように努め、説明が必要と感じる事案については、PTA役員にも報告し、学級懇談会に管理職も参加し、理解と協力を求めていく。
2 知(確かな学力の育成)	①(授業改善と授業力の向上) 全ての子どもがわかる・できるような授業を行い、児童の学力向上に努める。また、配属された授業改善を行い、「学力向上ロードマップ」に従って組織的・継続的・積極的に学力向上に取り組む。	学習指導部	<満足度指標> 児童がわかる・できるように授業改善し、児童の実感となっている。また、学力向上ロードマップの確実な実践に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】【保護者アンケート】授業内容がわかるという児童・保護者の割合・学力向上ロードマップに従って取組ができてきているという教師の割合	【児童②91%教員③100%保護者②87%】 児童アンケートのAB評価が9%向上したことが一番の成果と言える。教師が「ねらい」課題を明確にして「全ての児童に意識化」したこと、「わかる・できる」授業も達成感を持って学習をすすめることが増えた。個別支援の必要な児童に対する手立てを工夫している。	A	確かな学力の育成における児童の「達成感」の尺度は何か。各数値を見ると、向上してきたことが、4択のアンケートだけでなく、具体的な項目・表現を通して、児童が自身の学びを振り返る評価をすることで、次の目標につながる力が付くと思う。そのことが、一人一人が自信をもって自己PR・プレゼン能力をのほすことにつながると思う。	学力向上ロードマップの確実な実践と組織としてのより効果的な取組をさらに工夫していく。また、各学年の指導事項の定着を徹底し、学びが確実に積み上げられるようにする。今後も、「授業見合い」などを進めて、指導と評価の一体化を具現化する授業改善についての研究を深め、授業力向上を目指す。
	②(基礎・基本の定着) 「きらめきシステム」を充実・発展させ、計画的・組織的に検証・改善を進め、基礎的知識・技能を定着させる。	学習指導部	<成果指標> 「きらめきシステム」が計画的・組織的に運営され、基礎・基本を定着させるものになっている。	【教職員アンケート】「きらめきシステム」が検証・改善され、基礎・基本の定着につながっているという教職員の割合	【教員④93%】A評価が14%向上した。朝の「きらめきタイム」では、全校で集中して取り組むことで、放課後の「チャレンジ学習」「リソース」において支援の必要な児童に継続的な補充が行われ、児童の確かな理解につながった。	A		より基礎基本の向上につなげるために、担任との連携を密にし、T2(級外)の配置を含め、次年度はもう少し早い時期から計画表を作成し取り組む。(リソースは、今年度7月開始) 成果と課題を共有し、具体的な改善策を講じる。
	③(学び合い) 言語活動、活用力の育成、全ての教育活動で適切な言語活動を充実させる。相互意識を持って協働や組織を明確にして表現力やプレゼン能力を育成する。	学習指導部	<成果指標> 自分の考えを根拠や筋道を明確にして表現する言語活動を適切に行っていること、学び合う意欲が高められ、活用力の育成につながる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】学び合いの意識を交流して、考えを深めたという児童と教師の割合	【児童③71%④92%教員⑤79%】 言語活動・学び合いの重要性を共有し、教師・児童ともに意識の高まりがみられる。同時にその難しさを実感し、評価が低くなった点もある。少人数での交流のよさは実感しており、相手意識を持ったスピーチ指導等の工夫も行った。	B	放課後残すことが難しい時代、児童に補充学習をするのは、やりくりが大変だろうが、ありがたいことである。チャレ学習や相手意識も充実させて、できる限り残しがないように今後も努力してほしい。	早い時期から、年間の見通しを明らかにし、現状把握と次へ向う取組を焦点化すること、次年度を具体化し確実に共通実践するPDCAの道筋を確立する。全学年に授業公開研究会を行い、計画的に行い、確実な向上につなげる。
	④(学力の検証) 学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組む。計画的に学力の向上をめざす。	学習指導部	<成果指標> 学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組む。計画的に学力の向上をめざす。	【教職員アンケート】分析から得た学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組むという教師の割合	【教員⑥93%】 12月の評価問題の分析も含め、課題を洗い出した。「根拠の明確さ」「筋道の立て方」を重視し、重述・算数についての強化単元を特定し取り組んだ。能美コンプリントにも計画的に取り組んできた。教師のA評価は50%と倍増した。	A		次年度は、4教科において課題対策の重点を決め、強化単元をもとに取り組みをすすめる。また、他教科でも、既習を確かに取り組みを活用する力を育成する授業づくりに努める。
3 徳義かなかなの育成	①(開発的な生徒指導) 人間関係エクスサイズやほめ言葉シャワー等で児童の自尊感情を高め、親和的な学級をつくる。	生徒指導部	<成果指標> 親和的な学級づくりが進み、自己正感や共感の深い人間関係が醸成されている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】【教職員アンケート】児童一人一人が自己の役割を持ち、互いに認め合い大切にされている学級と感じる3者の割合	【児童⑤78%】、【教員⑦100%】 ほめ言葉シャワーに加えハートフルボックスを作り、担任以外から認められる場を確保した。挨拶当番や人権に関するたわわり活動を行い、親和的な学級作りを目指した。教師のAB評価は14ポイント向上した。	B	学期初めの効果的な学級運営のポイントの研修をしたり、計画的なたわわり活動をかけたこと、取組で「ほめ」が自己有用感の育成を目指す生徒指導における指導と評価の一体化を可能にする教師力の向上に努める。	
	②(環境保全・奉仕活動の推進) 校内の美化活動をはじめとした環境保全や、ボランティア・奉仕活動への取組を進める。	生徒指導部	<成果指標> 誰かの役に立つことの大切さに気付かせ、自分から気づき、行動に移す取組を進めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】「気づき清掃」をはじめとした環境美化や奉仕活動に取り組んでいるという教職員の割合	【児童⑥82%】、【教員⑧71%】 「気づき清掃」について職員研修・学年集まり等で、生活のめあてを「チャレンジ学習」の意欲の育成や呼び掛け活動で「実行委員会」を経験させ、リーダー性の育成を図った。	B	次年度は「たわわり清掃」の取組を試み、子ども自身が助け合い認め合える場を大切にすること、担任以外から認められる場があるのは、よいことである。担当する教員も担任も嬉しいので、懇談や学級PTA等で保護者とも共有できるように、地域でもほめられるシステムがあるとさらにいい。	
	③(道徳教育) 郷土愛をはじめとする重点項目を中心に道徳の時間を充実させる。また、豊かな体験を活かし、具体的な道徳教育全体を通してに響く道徳教育を推進する。	道徳教育推進部	<努力指標> 道徳の公開授業をはじめ、計画的に授業実践を行う。また、教育活動全体で、体験的な活動を通して、郷土愛をはじめとしたに響く道徳教育を行っている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】道徳の公開授業をはじめとする重点項目を中心に響く道徳教育に努めているという教師の割合	【児童⑧93%教員⑨100%】 月ごとに道徳の授業のねらいを提示し、授業にのびのびと取り組むという話から授業改善への意識向上につなげるよう図った。また、地域の人材を活用した授業づくりも行い、ゲストティーチャーへの依頼だけでなく、地域への愛着を高める場とした。	B	教師評価100%が多いが、児童はそうではない。教師が組織的な実践をしており、自己評価が高いのだから。さらに向上するために、各取組の検証方法を具体的に定め課題意識をもって改善・工夫に取り組んでいく。	
	④(読書指導) 読書指導の多読による量的な指導を強化し、教科に関連させ読書の質の向上をめざす。	学習指導部	<努力指標> 教科での並行読書や調べ活動での図書館活用が行われている。また、読書会、家庭での読書活動の推進に努めている。	【教職員アンケート】【児童アンケート】読書会を達成するために努力したと思う教職員の割合 また、各学年のおすすめの本を読んだという児童の割合	【児童⑨87%】【教員⑩100%】 さまざまな取組において、図書館の活用が活発に、意識的に行われた。いろいろな取組を通して、さまざまな分野の本を読むことが増えた。教師のAB評価は100%となり、A評価は35%向上した。	A		読書量は増加したが、児童の関心に個人差や内容のばらつきがあり、「〇〇先生のお話と本」など、読書月間等の取組をさらに工夫することでより充実を図っていく。次年度は、清掃後に読書タイムを設定し、落ち着いた気持ちで5限授業のスムーズなスタートにつなげる。
4 体(健やかな身体)の連携	①(基礎体力づくりと体力の向上) 同学年異学年との多様な遊びを通して、基礎体力を高め、また、「スポチャレ」各種取組で体力を保持させ、結び強く、楽しく運動に親しみ、体力を向上させる。	保健体育部	<満足度指標> 休み時間には、積極的に友達と仲良く遊んでいる。また、自分たちで立てた目標に向かって意欲的に運動に取り組んでいる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】休み時間に積極的に仲間と遊んでいる児童の割合 また、目標に向かって立てた目標と一致する児童及び目標を持てる児童の割合	【児童⑩92%教員⑪86%】 持久走や縄跳び短時間等、全校挙げての取組の徹底を図ったことで、多くの児童の運動量の確保ができた。廊下のミニ運動コーナーでも、測定日を定める等、児童委員会の取り組みを工夫することができた。	B	昔に比べて屋外で体を使った遊びをしていない。体の使い方を知らないためのけがもあり、大人が「遊び」を教える時期に来ているのかもしれない。	
	②(安全指導の徹底) 体育活動・給食活動での安全対策・安全教育を徹底し、事故のない活動を確認する。	保健体育部	<努力指標> 安全指導を徹底し、けがや事故の防止に努め、児童の危機回避能力育成のための努力をしている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】安全指導の徹底と児童の危機回避能力の育成に努めているという児童の割合 また、けがや事故に気を付けて活動できたという児童の割合	【児童⑪92%教員⑫93%】 器械運動を始める9月を前に、各運動の狙いや指導のポイント等を共有し共有した。器械運動の授業の際には必要に応じて支障の少ない複数体制を確保した。また、アフィリエイト対応のEビベン講習やノンインフルエンザ対応の講習を定期的に行い、職員全員が対応できるようにした。	B	サーキットトレーニングなど授業での体力づくりの工夫はすばらしい実践なので、器械運動など年間の見直しを持った体力づくりの取組を工夫してほしい。	
	③(健康教育・生活リズムの確立) 家庭学習やネット対応をはじめとする自らの健康や生活に關心を持ち、進んでよりよい生活習慣・食習慣づくりに取り組む。	保健体育部	<成果指標> 「早寝早起き朝ごはん」家庭学習強化週間」に積極的に取り組む。児童の生活リズム・学習習慣が整っている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】生活リズム・学習習慣を整えているという児童の割合 また、各取組を通して児童の習慣が向上したと感じる保護者の割合	【児童⑫89%保護者⑬70%】 学期として早寝・早起き・朝ごはんについて保健指導を行いながら児童作成のマスコットを活用して取組をすすめるための取組も一定の成果を得ている。	B	「早寝早起き朝ごはん」というが「早寝」が一つのポイントである。スポチャレや地域でも協力・呼びかけをしていきたい。	
	④(基本的な生活習慣) 保護者と連携して、PTA活動の活性化を図り、家庭学習と基本的な生活習慣の確立をはかる。	教頭	<満足度指標> PTA活動の企画が活発で、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われている。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】学校と連携しながら親子のふれあいや家庭の教育力が活性化していると感じる保護者の割合	【保護者⑭70%⑯92%教員⑰100%】PTAと連携して保護者・教員ともにAB評価が向上した。学校側PTAを「学校の体援団」と捉え、成果だけでなく、課題も伝え理解と協力を依頼してきた。また、必要に応じて、管理職が保護者面談や学級懇談会に出席し、「学校」としての立場と向き合いを提示してきた。④の家庭学習や取組については、今後の課題である。	B	学校は学びの場であることはもちろんだが、一方、「習い事で忙しい」など、昔のように地域での遊び・縦のつながりが希薄になっている現状では、学校が「遊びの場」でなく、行き場のない子どもたちが出てくる。学校に何もかもお預けし、負担も大きいと思うが、子ども一人一人にわたって「居場所」になり、いろいろな関心を育てる場となってほしい。	今後も、PTAの理解・協力を図り、より良い学校運営を支えていただけたらという努力をする。また、学年毎の家庭学習強化週間を中心に家庭への啓発の工夫を工夫する。特に、自学の取組について学校・家庭が狙いを確認し共有し、児童にやる気と学ぶ力を高める手立てとして効果的な進め方を検討する。
5 地域との連携	①(基本的生活習慣) 保護者と連携して、PTA活動の活性化を図り、家庭学習と基本的な生活習慣の確立をはかる。	教頭	<満足度指標> PTA活動の企画が活発で、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援を適切に行われている。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】学校と連携しながら親子のふれあいや家庭の教育力が活性化していると感じる保護者の割合	【保護者⑭70%⑯92%教員⑰100%】PTAと連携して保護者・教員ともにAB評価が向上した。学校側PTAを「学校の体援団」と捉え、成果だけでなく、課題も伝え理解と協力を依頼してきた。また、必要に応じて、管理職が保護者面談や学級懇談会に出席し、「学校」としての立場と向き合いを提示してきた。④の家庭学習や取組については、今後の課題である。	B	学校は学びの場であることはもちろんだが、一方、「習い事で忙しい」など、昔のように地域での遊び・縦のつながりが希薄になっている現状では、学校が「遊びの場」でなく、行き場のない子どもたちが出てくる。学校に何もかもお預けし、負担も大きいと思うが、子ども一人一人にわたって「居場所」になり、いろいろな関心を育てる場となってほしい。	今年度より強化した道徳や総合的な学習でのゲストティーチャーの活用を計画化する。児童の「本物」との出会いによって、地域への愛着を一層高める。また、新たな人材を地域に求めた上で、いたった人材の状況を公開していくことで学校への理解や期待を高める。次年度よりはじまる「コミュニティスクール」についても、有効な取組として進めよう、今年度内にできる限りの準備・計画を行う。
	②(情報される学校づくり) ニーズに応じて積極的に学校の情報を発信し、「元氣アップ事業」等を進め、効果的な地域の人材活用に取り組む。	教頭	<努力指標> 学校について多様な媒体を通じて積極的に学校の情報を発信し、「元氣アップ事業」等を進め、効果的な地域の人材活用に取り組む。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】学校からの情報発信・情報開示や地域の人材活用など「開かれた学校づくり」が進んでいると感じる保護者・教職員の割合	【教員⑱100%⑳93%、保護者⑳87%】クラブ活動だけでなく、安全のゲストティーチャーや各行事での安全確保の協力や地域の人材の活用をすすめてきた。児童の地域への愛着心を高める働きにも有効な点も多し。また、地域コーディネーターとの連携も進んでいっている。	A	挨拶など、地域が育てられることは大切にしていきたい。学校は学習だけでなく大変な時代であり、基本は家庭と思えることも学校だけでなく地域の出番として補っていくことが求められている。地域の人間としてできる限りの協力はしていきたい。	